

備北地域医療構想調整会議 報告書

備北地域医療構想調整会議

会議の実施日時	令和7年10月23日（木） 15:30～17:00 令和7年度第1回
次第2 議事	
(1) 備北地域医療構想調整会議	
ア 新たな地域医療構想等について	
■ 事務局から資料1によって議事(1)アについて説明した。	
<質疑・意見等>	
特になし。	
イ かかりつけ医機能報告制度について	
■ 広島県医療介護政策課から資料2によって議事(1)イについて説明した。	
<質疑・意見等>	
○ 地域の支援病院がかかりつけ医機能に係る情報を提供することに懸念があり、今後収集したデータの提供について、県とも話をていきたい。（議長 中西会長）	
○ 三次市と庄原市の大部分が医師少数スポットに該当しているとのこと。この地域でかかりつけ医機能をどう発展させるかが課題。（戸谷委員）	
⇒ 医師少数スポットへ医師を派遣するより、その地域周辺の基幹病院へ医師を派遣して工夫していくという話になっている。（議長 中西会長）	
ウ 令和6年度病床機能報告の状況（確定値）について	
■ 事務局から資料3によって議事(1)ウについて説明した。	
<質疑・意見等>	
○ 各圏域では国の示す数字に合わせるというより、医療需要や病院の事情により病床が減らされてきたが、最終的なゴールはあるのか。また、圏域からの報告をそのまま受け入れるのか、それとも修正が求められるのか。（議長 中西会長）	
○ 備北地域特有の広大な面積も考慮した上で、必要病床数を計算すべきではないか。（郷力理事・委員）	
⇒ 現在も圏域のアクセス時間や人口に関するデータは出ているが、具体的な病床数の議論には至っていないと思われる。（議長 中西会長）	
エ 令和6年度基金の執行状況について	
■ 事務局から資料4によって議事(1)エについて説明した。	
<質疑・意見等>	
特になし。	

才 各圏域の病床の状況について

- 事務局から資料5によって議事(1)才について説明した。

＜質疑・意見等＞

特になし。

力 令和7年度実施スケジュール（案）について

- 事務局から資料6によって議事(1)力について説明し、原案どおり承認された。

＜質疑・意見等＞

特になし。

その他の発言

- 備北圏域における在宅医療・介護の連携等の問題について、理事・委員から発言があった。

- 三次市では、介護需要がピークを迎え、サービス利用件数や回数が減少傾向にある。施設は空室が増え、運営が厳しい状況。人口減少に伴い、中山間地域全体で介護需要が減少している。(山口委員)
- 庄原市では、高齢者数、介護給付費は減少しているが、1人あたりの給付費は県内で2番目に高く、介護需要は高止まりしている。介護サービス事業所の維持や人材確保が課題。(松永委員)
- 三次市では、高齢者数の減少が進んでいると感じる。(亀井理事・委員)
- 庄原市では、介護人材の確保が課題。特に最低賃金の上昇が負担となり、給付費の改定が追いつかないという現状がある。行政と協力しながら解決策を模索したい。
(上田理事・委員)
- 医療機関は依然として厳しい状況にある。社会保障費の見直しの動きがある一方で、新政権による先行きは不透明。真面目に急性期医療に取り組む民間の医療法人が赤字になる仕組みであるべきではない。
介護では人手不足に加え、適正な資質を持つ若者の確保が課題。(戸谷委員)
- 経営面、人材不足への対応や若手の育成が課題で、環境整備が必要。地域医療に尽力してきた取り組みへの評価を望む。(岡崎理事・委員)
- 地域医療構想の中で「治し支える医療」を実現するための情報共有や社会インフラがまだ充実していない印象。介護施設の利用者は減少しているが、求められる介護の質は向上しており、地域の中でこれに対応する施策が必要。三次地区医療センターとしても、リハビリを通じて、地域医療に貢献していきたい。(安信理事・委員)
- 庄原赤十字訪問看護ステーションでは訪問の回数が増加しており、庄原市街地だけでなく比和や高野への訪問も増加。比和にサテライト事業所を設置した。
(鎌田理事・委員)
- 西城地域では高齢者人口が減少しており、訪問看護件数は増加傾向ながら頭打ちの状態。また、災害時の訪問看護の確保について検討を進めている。(郷力理事・委員)

※発言順